

海外事業

緊急支援

チリ コミュニティセンター再出発



地震の影響で亀裂が入った跡

2010年2月27日、南米チリにおいて、マグニチュード8.8の歴史的な大地震が発生しました。その地震では、800人以上が死亡し、200万人もの被災者がでました。グッドネーバース・ジャパンは、兵庫県の皆様からのご寄付でチリのウアラニエ市にあるコミュニティーセンターの改修事業を行い、2013年7月上旬に完了しました。

震災前、コミュニティーセンターは住民たちの話し合いの場として活用されていましたが、地震により施設は政府から使用が禁止されるほどに大きなダメージを受け、その後2年が経過しても市の財政難のため改修が行われていない状態でした。



改修後のコミュニティーセンター

改修完了に伴い、グッドネーバース・ジャパン事務局長の小泉が、現地での竣工式に出席しました。村人のほぼ全員が集まり、新しくなったコミュニティーセンターの再出発を祝う様子からは、住民のコミュニティーセンターに対する期待・関心の高さが見受けられました。また式展では日本の国旗が掲揚され、兵庫県の県章がコミュニティーセンターの銘板に記されました。

完成したコミュニティーセンターは、住民の情報交換の場だけでなく子どもたちへの教育の場としての機能も果たしています。近くにある小学校には体育館がないため、子どもたちに場所を提供したり、施設の一角にある図書コーナーには防災に関する書を多く取り揃え防災教育にも役立てています。日本と同様に地震が多く発生するチリにおいて、このような防災教育の重要性はとて高いのです。



竣工式の様子

地震により多くの被害を受けましたが、チリは徐々に復興を遂げています。今後は、再び地震が起きても被害を最小限に抑えるための取り組みが求められています。

コミュニティ開発

ケニア 子どもたちの希望へつながる道



JECに通うケニアの子どもたち

グッドネーバース・ケニア（GNK）は、ケニアの首都ナイロビの東に位置するコロゴチョ地域において、子どもたちを対象に教育支援や給食支援活動を行っています。コロゴチョ地域は、大きなゴミ処理場の周辺に形成されたスラム街です。

GNKは1996年に、ゴミ処理場に面した小さな家を教室に改装し、“ジラニ教育センター（JEC）”と名付けました。そして2013年4月22日には、新たなJECが開館し、以前は200名までだった児童の受入人数が、400人に増えました。

GNKは、ここに通う子どもたちの授業料の援助や、一般診療を提供しています。地元の住民は、JECを“スラム街に咲いた一輪の花”と呼び、子ども達の将来に期待を寄せています。

そして、子どもたちは援助を通して、自分たちが受けてきたように他の人にも愛情や思いやりを与えられる大人になることを夢見ています。



2013年4月の開館式の様子

グッドネーパーズ・ジャパンは、ルワンダにて給水施設事業のモニタリングと調査を実施しました。現地に滞在した齋藤スタッフへのインタビューをお届けします。

今回の事業地となったカギナ地区に住むトゥワ族という少数民族は、他の民族や政府から長年差別を受けてきました。そのため、この地区では給水施設が整備されておらず、子ども達の約80%が消化感染症、約20%が寄生虫症を患っています。

・給水施設の現在の様子を教えてください。

今回のプロジェクトでは4基の給水施設を設置しました。完成してまもなく、住民が水を汲みに来ていて、早速活用されていました。以前は長時間かけて水源に行き、不衛生な水を使っていましたが、今では安全な水が手に入るのでも喜んでくれています。

・カギナ地区の住民の衛生に対する意識の変化は感じましたか？

家から水源までが遠い上に安全な水ではないことから、住民の衛生に対する意識は決して高いとは言えませんでした。そのため、手洗いや歯磨き、食器洗いなどの習慣があまりなく、このような環境も病気の引き金となっていました。そこで、カギナ地区の全世帯対象に衛生教育を行い、衛生用品(歯ブラシ、歯磨き粉、石鹸など)を配布しました。「歯磨きはお金持ちがすることだと思っていた。今では毎食後、歯磨きを家族全員でしている。」と話してくれた方や、洗った食器を乾かしているところを見せてくれる方もいて、住民の衛生に対する意識が高まっていることが伝わってきました。

・ルワンダで最も緊急性が高い問題はなんですか？

ルワンダ政府は、政策としていくつかの重点分野を挙げています。その中のひとつが「安全な水へのアクセス」です。2020年までに、全国民の安全な水へのアクセスを確保することを目指しているルワンダですが、今現在、地方におけるその人口は66%※とされています。安全な水を手に入れることにより、病気が減り、衛生に対する意識の向上も期待されるため、これは大きな課題だと思います。

・ルワンダの滞在の感想を教えてください。

ルワンダは、標高が高いため日差しが強いですが日中でも30℃を超えず、夜は寒いと感じる日さえありました。酷暑に見舞われた日本よりも、気候は過ごしやすいですね。さらに、ルワンダは街にゴミが落ちておらず、とても綺麗な国です。ビニール袋の使用は禁止されていたり、あらゆるところにゴミ箱が設置されています。

また、ルワンダと聞くと内戦や虐殺を真っ先に浮かべる人も少なくないと思います。今現在もその名残はありますが、政府も国民も前に進もうとしています。例えば、民族の区別は廃止されていたり、インフラの整備や教育の拡充がその代表です。内戦により滅的な被害を受けた学校や教会などのインフラでしたが、今では市内に「キガリシティータワー」と呼ばれる高いビルが建ち、アフリカにいるとは思えない建物も目にすることができます。また、二度と悲劇を繰り返さないために、現在の政府は教育に力を入れています。

※出展：WHO/UNICEF JMP2013 <http://www.wssinfo.org/>



新しくできた給水施設を利用する子ども達



衛生用品を持つカギナ地区の住民



洗った食器を乾かしているところ



給水施設と水を汲む住民

東日本事業

復興支援

復興支援 最終報告会



報告会の様子



インドネシア研修に
参加した高校生

グッドネーバース・ジャパン（GNJP）は、2011年3月11日の東日本大震災発生以降、岩手県の大槌町・釜石市・山田町を中心に緊急支援・復興支援に取り組んできました。その活動報告として、2013年6月29日に最終報告会を実施しました。当日は、GNJPの活動報告に加え、インドネシア研修に参加した岩手県の高中生によるパネルトーク、アートセラピー作品の展示を行いました。

心のケアとして実施したアートセラピーの展示では、子ども達が描いた作品から子ども達が震災で受けたストレスが和らいでいく経過を見ることができ、参加者からは「この報告会だけではなく世界に向けて発信してほしい」との声を頂きました。

また高校生によるパネルトークでは、インドネシア研修で学んだことや、震災発生当時から研修後にいたるまでの自身の心の変化を、研修生に語ってもらいました。研修後は震災を風化させないために自ら被災地案内を企画するなど、積極的に行動していることが見てとれました。

参加者からは、パネルトークに参加した高校生に対する励ましの声が多く寄せられ、高校生の生の声を届ける良い機会になりました。

震災が人々の記憶から忘れ去られつつあると言われる中で、被災地の方と繋がる場を来場者の方と共につくれたことを大変嬉しく思います。ご参加くださいました皆様、ありがとうございました。

復興支援

アートセラピー進捗状況ご報告



水たっぶりの絵の具で
描かれた鳥のぬり絵



廃材が子どもの手によって
仮面ライダーに変身

2012年7月から続けてきた大槌町おさなご幼稚園のアートセラピーも残すところあと2回となりました。幼稚園の先生方から終了を惜しむ声を耳にします。

ワークに参加している子ども達の半数は、震災の記憶がほとんどない小さい子ども達です。しかし、子ども達は家族が当時の事を思い出して涙を流している姿を目にすることで、間接的に震災の影響を受けているのです。

子どもたちの描いた絵について、色彩心理士は、以下のように述べています。

「水たっぶりの絵の具で描かれた鳥のぬり絵（左上の作品）は、交感神経を刺激する赤と副交感神経を刺激し鎮静効果のある青という全く正反対の配色になっていて、「混乱」を感じさせますが、同時に水がたっぶりの絵の具使いをみると、なんだかとても気持ち良く、感情を発散しているように思えます。

また、廃材を利用した作品作りがちょっとした流行りです。左下の作品は、メロンの緩衝剤を利用したものです。仮面ライダーでしょうか？顔が出来上がるとは想像もしていませんでした。プリンのカップや空き箱、アイスクリームの棒などのさまざまな材料から生み出す素晴らしい作品に驚かされました。」

9月をもって終了となるこのアートセラピー。「残り2回のワークを充実させたい」と色彩心理士は意気込みを語ってくれました。

イベント報告

レポート

教育×MDGs×児童労働反対

世界一大きな授業



出展JINNE
「世界一大きな授業」国会議員編

現在、世界には学校に通えない子どもは6100万人、文字の読み書きができない大人は7億7500万人もいます。「世界一大きな授業」とは、そんな世界の状況に目を向け、教育の大切さを教える世界規模のイベントです。世界180カ国のNGOや教職員が運営するネットワーク「教育のためのグローバル・キャンペーン」が、「すべての子どもに教育を」を合言葉に2003年からスタートしました。

今年は4月15日から5月12日までの実施期間中、全国から662校・グループ58,418人が参加しました。参加者は、「世界一大きな授業」を通して感じたこと考えたことを元に安倍総理宛にメッセージを書きました。

MDGsフェスタ～世界と結んだ8つの約束～

MDGs（ミレニアム開発目標）とは、2015年までに世界の貧困を半減させることを目標とした8つの約束です。グッドネーバース・ジャパン（GNJP）のユースグループとして新たに発足した「Smilooop」は、6月2日に横浜赤レンガ広場で開催された「MDGsフェスタ～世界と結んだ8つの約束～」に参加し、来場した子ども達を対象に「世界一大きな授業」の教材を用いて、「識字の重要性」をテーマにした体験学習を行いました。当日は、127名もの子ども達がブースを訪れ、途上の識字率や文字が書けないとどんな風に困るのか？などをクイズを通して学びました。子ども達が楽しみながら学ぶ場を提供することができ、Smilooopのメンバーにとっても学びの多いイベントになりました。

*GNJPは、『もっと若い人に国際協力に参加してほしい』という思いから、ユースグループ「Smilooop」を立ち上げ、2013年4月から活動を開始しました。「Smilooop」は、「開発・人道支援に携わりたい！」という熱い情熱を持った若者たちによるグループです。今後も彼らの活動にご注目ください！



GNJPのユースグループ
「Smilooop」



クイズ形式での体験学習の様子

ストップ！児童労働キャンペーン2013



出展CL-Net

皆様は、6月12日が何の日かご存知でしょうか。

正解は……「児童労働反対世界デー」です。国際労働機関（ILO）によって2002年に制定されました。グッドネーバース・ジャパン（GNJP）が運営委員として参加している児童労働ネットワーク（CL-Net）は、6月1日～6月30日まで「ストップ！児童労働キャンペーン2013」を実施しました。今年のキャンペーンでは、草の根＆参加型の新企画「ひととはたあげよう」の実施やTICAD V(第5回アフリカ開発会議)のサイドイベントの開催などの活動を行いました。「ストップ！児童労働」の旗と一緒に写真を撮り、身近な人と児童労働について話さきっかけを作ろうという目的で実施されたこのキャンペーンでは、473枚もの写真が投稿され、GNJPもスタッフやインターン、ボランティアさんと共に参加しました。集まった写真は、CL-Netによって国際機関(ILOなど)に提出される予定です。



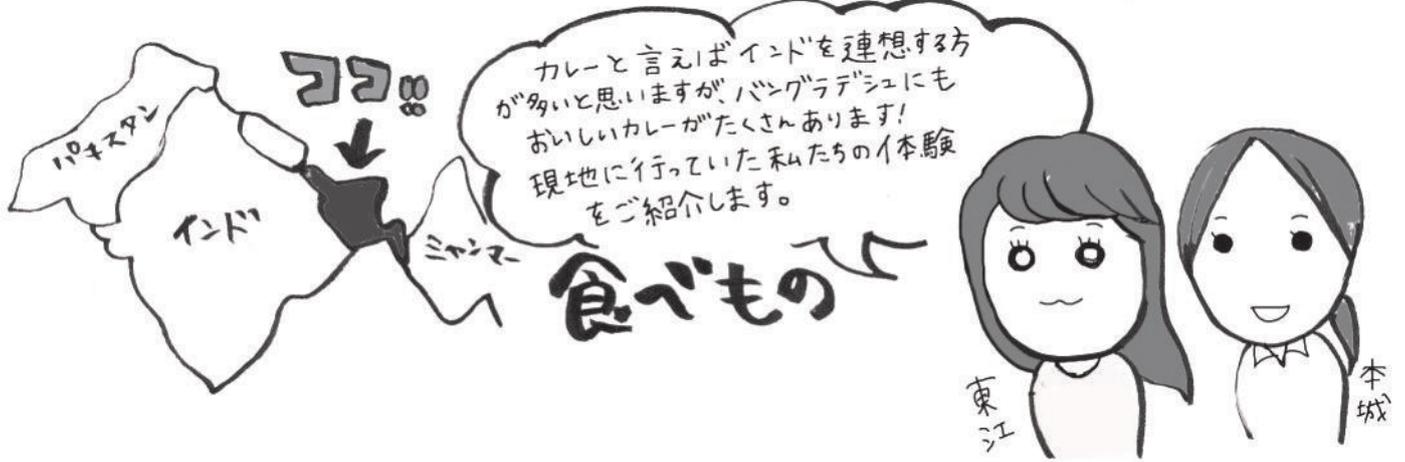
GNJPもひととはたあげました！

支援×文化

国名は知っていても、どんな国かは意外と知らないものですね。グッドネーバースの活動と共にその国の文化も紹介します。各国の独自の魅力に触れてみてください！

文化紹介

Bangladesh ってどんな国？

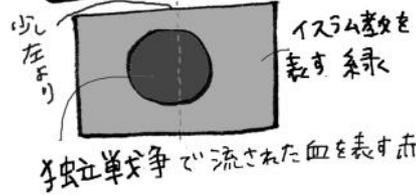


みんな大好き

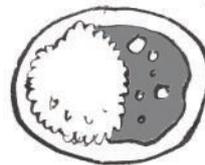
インドではスパイス入りの「チャイ」がポピュラーですが、Bangladeshはスパイスなしで飲みます。「チャイ」の語源は中国の「茶」から来てるんだとか！



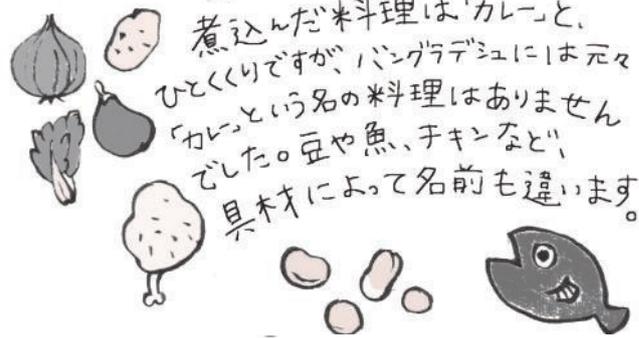
国旗のはち



カレーはカレーじゃない!!



日本ではスパイスと一緒に煮込んだ料理は「カレー」とひとくくりですが、Bangladeshには元々「カレー」という名の料理はありません。豆や魚、チキンなど、具材によって名前も違います。



値段が高い!食品



近年の物価上昇で卵や牛乳は日本と同じくらいの価格に!! 「チャイ」が屋台で5円(5リットル)で飲むのを考えると... すごく高い!!

おもてなし好きの Bangladesh



ルワンダの食事

ルワンダに滞在する齋藤スタッフから食文化をレポートしてもらいました。あまり知られていないルワンダの食事をご紹介します。

ルワンダの主食は、バナナ、豆、サツマイモ、メイズ、キャッサバ、ジャガイモ、肉（牛肉、鶏肉、ヤギ肉など）などです。

パパイヤ、パイナップル、マンゴー、パッションフルーツなどの果物も豊富です。

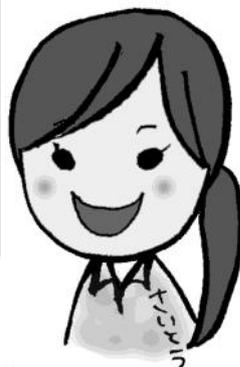
またルワンダは牧畜が盛んな国で、牛乳や乳製品が豊富にあります。キブクトと呼ばれる濃厚な飲むヨーグルトもあるそうです。



ルワンダで定番の「メランジェ」

ルワンダで定番の「メランジェ」は、1皿約200円と安いのに、盛り放題です！！炭水化物が多めですが、味はとても美味しいです。（写真：右上）

ブロシエットという炭火で焼いたヤギ肉の串もおいしいです。日本ではあまりなじみがないヤギ肉ですが、臭みはなく食べやすかったです。ピリ辛のタレと炭火の香ばしさがマッチして、ビールのおつまみにぴったりです。（写真：右下）



炭火で焼いたヤギ肉の串「ブロシエット」

グローバルフェスタJAPAN2013

2013年10月5日(土)・6日(日)に日比谷公園にてグローバルフェスタJAPAN2013が開催されます。グッドネーバース・ジャパンも毎年参加している日本最大級の国際協力のイベントです。

グッドネーバース・ジャパンのブースでは、昨年も好評だったバングラデシュの女性の自立支援を目的とした職業訓練校で作られたたしおりなどのオリジナルグッズや、アジアとアフリカの雑貨や衣料品、食品等を販売します。

加えて、ユースグループ「Smiloop」によるヘナタトゥー※体験ブースも設置します。ヘナタトゥーのデザインを自分で決めて、腕や足に描くことができます！ぜひ体験しにきてください！

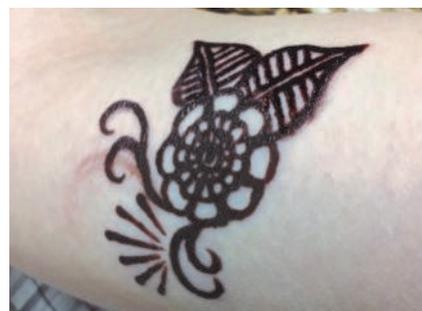
※ヘナタトゥーとはメヘンディやヘナアートとも呼ばれ、「ヘナ (henna)」という植物を使い、体に絵柄を描く「消える」タトゥーです。中東や南アジアなどの風習で、魔除けや幸運を呼ぶ縁起物として親しまれています。ヘナタトゥーは1・2週間ほどで完全に消えるため、気軽におしゃれを楽しみたい女性に人気です。

グローバルフェスタJAPAN2013概要

- 〈開催日〉 2013年10月5日(土)・6日(日)
- 〈開催場所〉 日比谷公園 (東京都千代田区)
- 〈入場料〉 無料
- 〈公式サイト〉 www.gfjapan.com



女性の自立支援を目的とした職業訓練校で作られたたしおり



ヘナタトゥー
※写真はイメージです。

グッドネーバース・ジャパンでは、学校・企業・自治体などの様々な団体の方を対象に講師派遣・出張講演の依頼を募集しております。

「発展途上国の問題について知りたい」「体験型のワークショップを通じて国際協力を学びたい」など皆様のご要望に応じた授業を提供し、分かりやすく実りある講義をいたします。グッドネーバース・ジャパンのスタッフと共に国際協力について考える一歩を踏み出してみませんか？



過去の出張講演の様子

【講師紹介】



■高久将一

拓殖大学国際開発学部卒業。青年海外協力隊としてモルディブ・ザンビアで活動。

2009年拓殖大学国際学部 客員教授として「企業人講座」の講義を実施。

2012年グッドネーバース・ジャパンに入職、岩手県沿岸地域にて震災復興支援活動(心のケアプログラム)に従事。現在は開発教育・アドボカシー活動を担当。

「小学生から大学生まで誰にでも分かりやすく、楽しく学べるよう心がけています。」



■シャー・アラム・モハッモド

バングラデシュ出身。日本在住歴12年。

日本大学大学院国際関係研究科博士課程修了。

2013年グッドネーバース・ジャパン入職後、アドボカシー課 課長として開発教育・アドボカシー活動を担当。現在、日本大学国際関係学部 非常勤講師、BEST Organization代表などを務める。

「説得力のある講義ができるよう努めています。」

【講演実績】

慶應大学 (AISEC慶應) ・安田学園中学校
拓殖大学国際学部・日本大学国際関係学部 など

利用者募集

講師料：**無料**

※東京都外の依頼のみ、講師の交通費をご負担ください

期限：随時募集

申込方法：ホームページの申込フォームよりお申し込みください

<http://www.gnjp.org/advocacy/form.html>

※その他、ご不明点などありましたらadvocacy@gnjp.orgまでお問い合わせください



編集後記 会報「TONARI」をご愛読いただき、ありがとうございます。今年の6月より広報インターンとして勤務しております、渡部と申します。今回は本誌の作成という大仕事を任せていただきました。私は『ルワンダの涙』という映画を観てから、ルワンダは虐殺の起きた国というイメージを抱いていました。しかし、齋藤スタッフからの報告や写真を通して、ルワンダの前向きな変化を感じることができました。 編集 渡部真梨子



お問い合わせ・資料請求

[Tel]03-6423-1768

(平日10時~18時)

[Email] sup@gnjp.org

住所変更のご連絡をお願いします！

ご住所やメールアドレスを変更されたサポーター様は、お手数ですが、グッドネーバース・ジャパン事務局までお電話、またはメール(左記参照)にてご連絡ください。